

ペットがガスこんろの 操作ボタンを押して火災に



留守番中の犬が操作ボタンを押したことで、こんろの火が
周囲の可燃物に着火して火災に至った事故が発生しています。



出かける前の約束だよ



ペットに留守番をさせる際のお願い

ガスの元栓を閉める



操作ボタンをロックする



ケージに入れる

のも有効な対策の1つです



※ポスター内の動物と製品は実際の事故とは無関係です。

京都市消防局(予防課) 075—212—6672

nite 製品安全センター

ペット(犬や猫)による事故

事故の概要

【事例①】飼い主が外出中、ガスこんろの周辺が焼損した。

【事例②】飼い主が就寝中、ファクシミリと周辺を焼損する火災が発生した。

【事例③】充電中の携帯電話と、その周辺を焼いた。



事故の原因

【事例①】室内で飼っていた猫が点火ボタンに触れ、ガスこんろを点火した可能性が考えられるものです。



画像提供 株式会社パロマ
「製品に関する大切なお知らせ」より

【事例②】ファクシミリに猫の尿が浸入したため、基板でトラッキングが発生したものです。

【事例③】携帯電話を犬がかんだため、電池パック内部の電極がショートして異常発熱が生じ、破裂して火災に至ったものです。



事故防止のために

- ◆ ペット(犬や猫)がガスこんろやIH調理器に寄りかかったり、上に登るなどしてスイッチを入れてしまうことがあります。ペットを家に残して出掛ける際は、ガスこんろは元栓を閉めるかロックを掛け、電気製品は電源プラグを抜いてください。
- ◆ かじったり、尿を掛けたりなどされないよう、ものを放置せず、ペットが触れない場所に保管しましょう。
- ◆ 飼い主の目が届かない際に発生する事故もあります。出掛ける際は室内で放し飼いせずにケージに入れておくなども、大切なペットを火災から守るために有効な対策です。

